

お鋤山 植物たより (H27. 2. 14)

この寒い中、お鋤山も春の準備が始まっています。ヤマツツジやユキヤナギは蕾どころか一輪、二輪の花を咲かせています。唯一咲いているのはシキザクラです。昨年の11月ごろ咲き始め、3月までは咲いています。地元の方が庭木等で利用されていたものをゆずり受けて移植したものです。いま7本あります。大きくなりました。



その咲いているシキザクラの周辺にはアラカシやクスノキ、シュロの幼樹が生えています。お鋤山の各所で見られる現象です。10年後には、お鋤山もこれら樹木で覆われてしまうかもしれません。



冬の今の時期、葉痕を眺めるのも散歩の楽しみです。葉痕は、葉の柄が枝に着いていた部分です。また、葉は枝との間で養分や水分をやりとりします。この養分や水分の通り道（維管束）も痕が残ります。それが葉痕の中にいくつかの点となります。この点が木によって目鼻や口に見えたりして、どんな動物に見えるかなどと連想する楽しみです。例えば、ハリエンジュ（ニセアカシア）は中央に葉痕があり、両側の棘がアクセントとなってコウモリを連想する人、デビルフェイスという人もいます。ニワウルシはハート型で多くの葉痕がついています。センダンには中央がこぶのように突き出て、3か所に維管束が3本あり、サルのように見えます。クズはパンダのようです。いずれの木や草もお鋤山だけでなく、農道を歩いても身近に見ることのできるものばかりです。一度観察してみたらどうでしょう。ただ、葉痕は大きなものではないので注視する必要

は ハリエンジュ

ニワウルシ

センダン

クズ

